



私が H29 の東京大学企業大学訪問で、三つの事柄があったからこそ充実した二日間を送ることができ、貴重な体験ができたと思う。

一つ目は DF である。近藤さんや笹川平和財団の皆さんのお名前は耳にしたことがなかったが、プロフィールや実績を見た私は仰天した。こんな素晴らしい方々のお話を聞くことができるのはとても嬉しいことだが、正直不安もあった。近藤さんのお話はとても前向きなものだった。印象に残っているのは「手がないことを隠すのではなく個性として捉える」という発言である。私には考えつかない発想である。いかに隠すか、他人から見られないようにするかを考えてしまう。つまり私は、マイナスのことをずっとマイナスのままにしようとしている。しかし、近藤さんは違った。マイナスのことをどのようにすればプラスになるかを常に考えていた。だから、そのような発言ができるのだと思う。この前向きな姿勢を見習っていきたい。笹川平和財団の中の長崎さん、遠藤さん、角田さんのお話を聞いた。長崎さんは AI について話してくれた。ある研究によると AI は、あるものを認識するときには他との違いからでなく、何枚もの写真や映像から、共通点を見つけ出し理解してから認識するらしく、人の感情は認識できないので、AI が仕事に進出してきても、人との接触に関わる仕事にはつけないとおっしゃっていた。最後に高校時代の投資は、90 歳になっても生きるとおっしゃっていたので、多くのことにチャレンジして様々なことを見つけていきたいと思う。

遠藤さんは複眼思考について話してくれた。始めに逆さまになった日本地図を見せてくれた。初めは何か分からなかったが、紙を逆にしてやっと分かった。日本の逆さまの地図からわかることがあった。それは、日本の領土が、中国や北朝鮮、韓国の公海への道を塞いでいるということだ。最近、日本の領海に中国の船が侵入したというニュースを耳にす

るが、これは中国だけが悪いわけではなく、日本にも問題があるということだったのだ。様々な角度から見ることで新しい発見ができた。日本の教育にもある指摘をしていた。それは、日本の教育は常に正解を求めすぎている、簡単に答えを出しすぎということであった。

例として、

$3 \times 4 = \square$ $\square \times \square = 12$ という二つの式を見せてくれた。

説得力のある例だなと思った。educationの意味を聞かれた。教育の他に、引き出すという意味があるらしい。人は生まれながらにして何かしら良いものを持っているのだから、それを引き出すのが教育の役目だとおっしゃっていた。高校までの日本の教育が答えを求めすぎてしまい、現代の人々は社会に出た後にとっても苦勞しているらしい。その学校と社会との大きな違いに対応できるようにいろいろな試練を受け、強い力を持ち、何かが突然変わったときにどう対応するか考えることが大切だとおっしゃっていた。いろいろな体験を通して自分の武器を見つけていきたい。

角田さんは、海洋の問題について話してくれた。地球温暖化が注目される中、海洋酸性化という問題もあるらしい。二酸化炭素が増えると地球温暖化だけでなく、海が弱酸性化してしまい、そのせいで生態系が崩れてしまうという問題も注目すべきだとおっしゃっていた。アメリカが協力しない現代の環境が心配だともおっしゃっていた。角田さんのように、自分がやりたいと思えるような、楽しいと思えるような仕事に就きたい。

二つ目は、慶應義塾大学の病院を見学できたことだ。慶應義塾大学の病院は、日本トップレベルの規模であり、多くの有名なお医者さんがいて、その中でも私は脳神経外科の先生のところを訪れた。優しい方ばかりで、緊張せずにお話することができた。始めにいくつか質問をした。

一つ目は私立の病院だからできることはありますか。その答えとして、医療については変わらない。国立ではないため、国からの補助がなく、すべて先輩方から寄付してもらっており、設備や物品は国立の大学よりも多いとおっしゃっていた。

二つ目は最長で何時間手術をしたことがあるかという質問に対し、18から24時間。出血しているため、途中で手術が終われないとおっしゃっていた。

三つ目は判断する際に気をつけていることはなんですか。という質問に対し、例えば癌だったら、一度で腫瘍を取り除きたいので、患者さんやご家族の皆さんとの話し合いの末、要望に沿って決断をするとおっしゃっていた。

四つ目は、患者さんの心のケアはどのようにしていますか。というのに対し、ベットサイドで話を聞いたり、リハビリを共に頑張ったり、自ら進んで話に行くとおっしゃっていた。

五つ目に様々な医療機関との関係について聞くと、役割が決まっているため、その地方でシステムが円滑に進むように機能しているとおっしゃっていた。

六つ目に覚醒下手術について聞くと、覚醒下手術とは、患者さんが意識がある状態で脳の治療をすること。脳波痛みを感じないため出来るとおっしゃっていた。

次に実験室を見せてもらった。そこでは、DNA RNA の実験や、ネズミを使った実験が行われているらしい。臨床医も手術だけでなく、実験も行なっているらしい。ネズミの保管場所などもみせてもらい、死にかけているネズミや、腫れているネズミを見ることができた。次に別の建物に移って、挿管と超音波を使って模型の人の体を見た。挿管は、人の頭側に立って、右手で上の歯を親指を、下の歯を人差し指を使って口を開き、その状態を保ったまま左手で L 字の道具を使って下をよけ、その奥に見えるヒラヒラしたものを、L 字の道具を使ってさらに左上の方へよける。すると、気管が見えるので、右手を外し、左手で道具を持ったまま、右手を使って管を入れる。最後まで見ないと食道に入ってしまう可能性もある。入れた管の先にポンプをつけ、空気を入れたときに、肺が膨らめば成功である。この作業を実際に行うことができた。思っていた以上に力が必要で、歯を抑えていた指が痛かった。挿管は、医者になるには、一人で出来なくてはならないことらしく、今学ぶことができてよかった。また、医者になる過程で、頭から足まで全てを実際の人体を使って解剖するらしく、大変だなと思った。超音波を使った体験では、様々な臓器を見ることができた。白黒で見てもあまりわからなかった。この機会を自由自在に操り、病気を見つける医者もいるらしい。慶應義塾大学の病院の見学により、医者というあり方を知ることができ、自分の理想に近づけるように、頑張っていきたい。

最後の三つ目は、一緒に見学などをした仲間である。私は、班が二つに別れ、途中から別の班に混ざり、知らない人たちばかりだったが、班長をはじめ、面白く、話しかけやすい人たちで、すぐに打ち解けることができた。仲間と楽しく話しながら活動したり、部屋や新幹線で遊んだりすることで訪問とは別に楽しむことができた。

の東京大学企業大学訪問で改めて自分を見つめることができたと思う。東京大学見学や OBOG との対談で、大学や学部の選択や、勉強などについての疑問もなくすことができた。夢に向かって前進することができたと思う。人生を左右する選択が後 2 年後には決まっている。そう思うと恐ろしいが、今までなんとなく決めていた自分にとって判断材料の一つとなった。そう簡単に決めることはできないとわかってはいるが、本当の自分にあった判断ができる気がした。今後も、様々な体験を通して、より本当の自分を探していきたい。

